

学校紹介

熊本県立八代中学校・高等学校

1. 沿革

明治 29 年	熊本県尋常中学済々黌八代分校として創立
明治 34 年	熊本県立八代中学校と改称
明治 35 年	八代郡立高等女学校開校
大正 12 年	八代郡立高等女学校が熊本県立八代高等女学校と改称
昭和 23 年	八代中学校は熊本県立八代高等学校と改称し、八代高等女学校は熊本県立八代女子高等学校として発足
昭和 24 年	八代女子高等学校を統合し男女共学となる
昭和 27 年	本校教育三綱領 「誠実にして真理を愛する」 「自律を旨として協和を重んずる」 「闊達にして進取の気象を尚ぶ」 制定される
平成 8 年	創立 100 周年記念式典挙行
平成 21 年	併設型中高一貫教育校として、熊本県立八代中学校開校

2. 概要

(1) 熊本県立八代高等学校

	1年	2年	3年
学級数	6	7	7
定員	240	280	280



すべて普通科であり、2年次から文系クラス・理系クラスに分かれる。特別な進学クラスは設けておらず、全校生徒のほとんどが主に大学進学を目標に頑張っている。

(2) 熊本県立八代中学校

併設型中高一貫教育校であるため、希望すれば



	1年	2年	3年
学級数	2	2	2
定員	80	80	80



選抜なしで県立八代高等学校に進学できる。

3 本校の特色

平成 21 年度に県立八代中学校が開校し、熊本県初の併設型中高一貫教育校として今年で 3 年目を迎えた。今年初めて中 1～高 3 の 6 ヶ年が揃い、さまざまな行事・取り組みがいわゆる「完成年度」として動き始めている。

(1) 中高の連携による人間力の育成

学校行事や部活動など中高が合同で取り組むことが多く、中学生にとっては高校の先輩からさまざまなことを学ぶことができている。また、高校生にとっては、高校入学時から中学生の先輩となることで、上級生としての自覚と責任が生まれ、指導力が育まれている。

中学生の学校生活に対する悩みや不安について、高校生がよき相談者となって悩みを聞いたり、助言を行う「ピア・サポート制」もあり、中高が生活面で連携を行うことで、中高両者ともに優れた社会性を育てている。

(2) 中高 6 年間の継続した指導

八代中学校では一般の公立中学校よりも豊富な授業時数を確保し、学力の充実を図っている。本校の中学生は、中学校に在籍しながら高校籍の職員から授業を受けることができ、より高いレベルの学習指導を実施している。

また、中高を通したカリキュラムを研究中であ

り、まもなく実施される新しい学習指導要領に対応する中高一貫したカリキュラムの作成を目指している。完成後は、中高がさらに連携して、確かな学力の育成が期待できる。

4 本校の数学教育

(1) 本校数学科の目標

粘り強く論理性を持って考える力を涵養し、数学が社会生活において果たす役割を理解させ、豊かな人生を送る1つの要素となるような資質を育てる。

また、論理的な見方や考え方ができる能力を高め、活用できる資質を育てる。

(2) カリキュラム

ア 八代中学校

- 1年 週4時間+30分の鳳雛タイム
- 2年 週3時間+30分の鳳雛タイム
- 3年 週4.6時間

鳳雛タイムというのは、週に1コマ30分の数学の学習時間を設け、基礎定着のためのドリル学習や、応用問題を解く時間を設けるなど、必要に応じて自由に利用できる時間のことである。

八代中学校では、一般の中学校と比べて3年間で50時間ほど多い授業時数を確保している。

イ 八代高等学校

- 1年 数学Ⅰ(4単位) 数学A(2単位)
 - 2年文系 数学Ⅱ(3単位) 数学B(2単位)
 - 理系 数学Ⅱ(4単位) 数学B(2単位)
 - 3年文系 数学Ⅱ(3単位) 数学B(2単位)
 - 理系 数学Ⅲ(4単位) 数学C(2単位)
- (現行の学習指導要領でのカリキュラムです)

(3) 日常の学習について

・予習指導の徹底

中高ともに1年4月の導入期に予習の指導を徹底させる。あわせて授業の受け方・ノートを取り方・復習の仕方の指導を行い、本校の数学の授業に対応できるだけの姿勢を養っている。

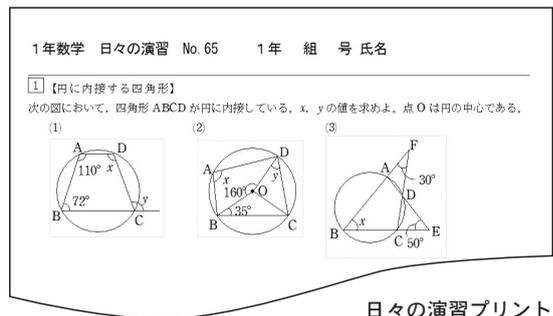
周辺にある一般の公立中学校では予習を課さない場合がほとんどであるため、高校1年時における予習指導は本校における最も大切な指導の一

つである。逆に併設されている八代中学校ですらで中学時に予習指導を行い、それが定着しているため、今後八代高校に進学してもスムーズに高校での学習に移行できるようになっている。

・日々の演習

中高ともに、毎日の授業の最後に「日々の演習」と称するプリントを配付している(学年によって形態・名称は少しずつ違う)。これは基本事項の定着のための復習プリントであり、先の予習指導とあわせた本校数学教育の柱の一つである。

年間100枚程度になるこのプリントは提出率も高く、大部分の生徒がすべて提出している。この取り組みも中高が同じスタンスで行っているため、八代中学校の生徒が八代高校に進学しても違和感なくスムーズに高校での学習に移行できるようになっている。



日々の演習プリント

(4) 興味・関心を持たせるための取り組み

学年によっては数学についての興味深いエピソードなどを教科通信の形で定期的に配付している。

日常の授業ではなかなか伝えられないような数学者のエピソードや、現在学習している数学の内容が、日常生活にどのように活かされているのかなどを発信している。

生徒からの評価も高く、生徒の数学に対する興味・関心を高める一助となっている。

(5) 学力充実に向けた取り組み

本校が数学科に限らず、基本的に「塾に頼らなくてもよい」指導を志しているため、授業はもちろんのこと、授業以外の部分でも学力向上のための取り組みを多数行っている。

・習熟度別授業、ティームティーチングの実施

中学校では全学年において、週1時間教師が2

人授業に入るように時間割が組まれている。現在では主にチームティーチングの形で、基本的な学習を2人で机間指導を行って、個に応じた指導を行っている。

また、2人の教師は1人が中学籍・もう1人は高校籍であり、発展的な学習を行うときは高校籍教師が中心に指導を行うなど、生徒の学力・要望に応じた指導を行っている。

高校では2年生理系において原則としてすべての授業で習熟度別授業展開や少人数指導を行い、3年生では文系・理系どちらも進路希望別のクラス編成を行って、少人数で個に応じた指導を実施している。



中学校での少人数授業の様子

・添削指導の実施

主に高校3年生の希望者が、職員に対して添削指導の依頼に訪れるのが八代高校のよき伝統になりつつある。希望者に対しては、高3の担当者だけでなく、中高あわせた数学科全体で添削指導を実施し、多くの希望者に対して個別指導を実施している。



廊下での個別指導の様子

職員室前の廊下には机が並び、多くの生徒が個別に指導を受けている。

・早朝課外の実施

高校では朝7:30から、補充学習を実施している。教科書を先に進めるのではなく、大学入試に対応した学力を育むために、問題集などを活用し実力向上を図っている。

・長期休業中の補充学習の実施

中学は3年生が、高校では全学年において長期休業中に補充学習を実施している。こちらも教科書を先に進めるのではなく、模擬試験の結果などから分析される弱点を補強したり、受験に向けた補充学習などを実施している。

(6) 中高接続に関わる取り組み

・中学から高校への接続に関わる問題集作成

中学3年間の授業が終了する中3の秋から利用できるように、中学3年間の復習と八代高校で学ぶために必要な発展的な内容を含む新しい問題集を作成した。

中学3年間の復習のために市販の教材を利用すると、どうしても高校入試対策問題集になってしまうが、独自教材を開発・作成することで、高校入試にとらわれることなく、さらに発展的な学習ができる。

(7) 中高全職員による取り組み

・全職員で作成する実力考査

高校3年の秋に実施される実力考査は、高校籍職員すべてに問題作成依頼があり、作成後は中高数学科職員すべてで2ヶ月ほどかけた検討会を実施する。中高10名を超える職員で作成・検討した実力考査で、高校3年生の実力を図り、今後の生徒への指導や、職員の問題作成能力の向上に役立てている。

・デジタルコンテンツの共有化

授業に必要なデジタル教材は、ネットワーク内に保存しており、数学科全職員が閲覧できるようになっている。他の職員が作成したデジタル教材であっても、必要に応じて自由に利用でき、教材の準備への負担が少しでも軽減できるようになっている。

(文責：八代中学校・高等学校 松田伸也)